

2021 年度は、2020 年度に引き続き、オンデマンド形式の授業運営であったことを配慮して、試験ではなく、3 つの小レポートの内容を踏まえて成績評価を行った。レポートはいずれも、教員が提示した「問い」について、授業内容を踏まえて、履修者の考えを 2,400 字程度で論述するものであった。スケジュールとテーマ、点数配分は以下の通りである。

レポート番号	課題提示日	テーマ	締切	DVD 視聴期間	点数配分
1 (＊)	4/22	国家間の格差がなぜ生じたのかについて、その時点での自分の考えを述べる	5/3	N/A	あわせて 32 点
	5/13	DVD 視聴を踏まえ、現在の国家間の格差が生じた理由について、各自の考えをまとめる	6/3	5/15・5/16 5/22・5/23 5/29・5/30	
2	6/17	DVD 視聴を踏まえ、新自由主義に基づく国際開発援助政策を如何に評価すべきなのかについて、各自の考えをまとめる	7/8	6/19・6/20 6/26・6/27 7/3・7/4	32 点
3	7/1	全 14 回分の授業の内容を踏まえ、国際開発援助政策の基礎となっている考え方について、各自の考えをまとめる	8/16	N/A	36 点

* 1 つのレポートを、2 回に分けて書く (2 回分合わせて 2400 字程度の分量)

各レポートの質問の趣旨や、その質問に答えるために求められる知見については、該当する授業回にてレポート課題を提示した際に、特に視聴するように指定した解説動画において十分に説明してあるので、ここで敢えて説明することはしない。換言すれば、指示に従って、関連する解説動画を視聴していれば、出題の趣旨に即したレポートが執筆できるようになっているので、労をいとわず指定された解説動画を視聴することが求められる。

第 1 回・第 2 回課題レポートについては、問いで要求された各点に沿った形で、DVD および該当する樹業界の解説動画から入手できる情報を的確に整理できていたものが多かった。しかしながら、本授業全体の内容を踏まえて執筆することが求められている第 3 回課題レポートについては、複数の論点を十分に関連づけることができていないものが散見された。

なお、受講者自身の見解については、「依拠すべき立場」があらかじめ決まっているわけではない。根拠を持って提示されているかどうかが重要である。この点については、大半のレポートは合格点に達していたと言える。